

令和7年度（三ツ境支援学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上（法令の遵守（高い倫理感の保持及びわいせつ事案をはじめとする不祥事の根絶）、服務規律の徹底）	教育公務員としての倫理観を高めるとともに、服務規律について理解を深め、公務内外の不祥事を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初や長期休業前等に通勤や出張・年休等に係るサービスの説明・確認を行い、教育公務員としての自覚を促した。 ・コンプライアンス意識の醸成にかかる不祥事防止研修を行うとともに、適宜、具体的な例を示すことで、法令遵守の意識の向上を図ることができた。
職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）の防止	相手を思いやり、人権を尊重した風通しの良い職場環境を形成し、ハラスメントを防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・校長面接により、個々の職員の「良質の同僚性」について聞き取りを行い、人権尊重の意識の向上を図った。 ・「風通しの良い職場づくり」をテーマに外部講師を招聘して協議及び研修を実施、接点の少ない教員とのディスカッションにより同僚性を高めることができた。
児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	職員一人ひとりがわいせつ・セクハラ行為の未然防止について当事者意識を持ち、校内・外でのわいせつ・セクハラ行為を防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・わいせつ・セクハラ行為の未然防止にかかる研修を実施。複数による生徒対応及び、やむを得ず一人で対応する場合は見通しの良い場所での対応することの徹底を図り、わいせつ、セクハラ行為の未然防止に努めた。 ・日常的に校内を巡視するとともに、報告、連絡、相談しやすい雰囲気を作り、組織対応できる環境を作った。
体罰、不適切な指導の防止	教員一人ひとりが人権感覚を持ち、児童・生徒の人権を尊重した適切なかわりを徹底することにより、体罰・不適切な指導の発生を未然に防ぐ。	<ul style="list-style-type: none"> ・学期の初めと終わりの不祥事防止研修において、人権尊重の視点にかかる学級経営目標の設定、振り返りを担任間で行うとともに、検討した内容をTeamsで共有することで、児童・生徒への人権尊重の意識や同僚性が高まった。
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	児童・生徒の学習、進路選択と決定に影響する重要な業務であることを自覚し、書類作成・管理等を適正に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・総括教諭による入学者選抜等の事故防止にかかる研修を実施。図や写真を用い、マニュアルの見える化を図ることで、重要書類の管理が徹底された。また、誰がみても同じ判断ができるようになり、事故の未然防止につながった。
個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報の扱いや情報セキュリティに係る理解を深め、個人情報管理における点検・確認を徹底し、不祥事を防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報担当による個人情報の取り扱いと情報セキュリティに関する研修を行い、不祥事防止の意識を高めた。 ・データを保管するフォルダの整理を行い、ルールに則った管理がすすむように環境整備を行った。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	法令遵守を徹底し、交通事故や交通違反の発生を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業の前に、不祥事防止点検資料を活用して交通ルール等の法令理解と遵守の意識啓発を行い、事故防止の意識を高めた。

業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）	職員間で協力体制を構築し、風通しの良い職場を作ることで、適切で効率的な業務管理・遂行を行い、不祥事を防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・【再掲】「風通しの良い職場づくり」をテーマに外部講師を招聘して協議及び研修を実施、接点の少ない他教員とのディスカッションにより同僚性を高めることができた。 ・ヒヤリハット・アクシデント報告の様式を変更、軽微なヒヤリハット段階での報告数が上がった。報告の1カ月後に振り返りを行うことで、再発防止が図られ、事故の未然防止につながった。
財務事務等の適正執行	財務規則及び私費会計基準に基づき、私費会計の適切な執行・管理を徹底し、不祥事を未然に防ぐ。	・財務規則及び私費会計基準に基づき、公費及び私費会計の適切な執行・管理の徹底を図った。全般的には適正な処理が行われたが、軽微なヒヤリハットは見られたため、マニュアルの改訂をすすめる。

○ 令和7年度における不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と今後の課題（学校長意見）

不祥事防止プログラムの行動計画に基づいて取組をすすめ、おおむね目標を達成できた。総括教諭や関係の担当教員に研修を分担することで、管理職からのトップダウンよりも職員の意識が高まり、当事者意識をもつことができた。ヒヤリハット・アクシデント報告の様式を変更し、軽微なヒヤリハットでも報告することを促すことにより、軽微な段階での報告が増えた。また、原因や対応策を学部で共有するとともに、1カ月ごとに振り返りを行うことで再発防止が図られ、結果的に事故の防止につながっていることは成果である。風通しの良い職場づくりに向けた取り組みは良質な同僚性を高めるために有効であり、今後も継続していきたい。一方で、私費会計に関しては、大きな事故はないものの、軽微なアクシデントは散見される。インターネットバンキングを導入し、検証しやすいシステムの構築をすすめたい。